

活用した献立コンクール

審査結果

審査に臨みました。どのチームもアピールタイムに引き続き日頃鍛えた調理技術と噛み合った意識・技術力に磨きがかかり、次回も大いに期待ができる献立コンクールになりました。



自由献立部門

長野県産物を使用し、食育として教材化したもの

最優秀賞

生坂村学校給食共同調理場

受賞者の喜びの声

魅力ある
生きた教材になる
給食をめざして

学校栄養職員 青木 恵利子

審査発表で「最優秀賞は、生坂村学校給食共同調理場です。」と言われた時は本当に驚きました。今回、このような素晴らしい賞を

いただいたのも「生坂の子もたちには、生坂でとれた新鮮で安全な野菜を食べて元気に育て欲しい」と四季折々の農産物を届けてくださる地元生産者の皆さんをはじめ、地域の方のご協力や素材の良さが生きるようにゆで加減や切り方、味付けなど工夫して、子どもたちのために手間ひま惜しまず作ってくださいている調理員さんの日頃の努力の賜だと思えます。

受賞後は、受賞の報告を兼ねて、受賞した献立を給食に提供したり、家庭科の「バランスのよい献立を考えてよう」の授業では教材として活用したりしました。自然豊かな生坂の地で育つおいしい農産物や食への興味関心をさらに高める機会となりました。今後も地場産物を積極的に活用し、給食が魅力ある生きた教材になるように調理員さんと協力しながら、食育の推進に取り組んでいきたいと思えます。



参加者の声

なかなか上手くいかないことも多く試行錯誤しながらやってきたけれど、無駄ではなかったと献立コンクールへの参加を通して感じました。これからも子どもたちのためにがんばります。



参加者の声

各地域の素晴らしい献立を、本やビデオ等で見るとは違って実際に作ったものを見て試食でき、うれしい時間をいただけでよかったです。

優良賞



小諸市立美南ガ丘小学校

優秀賞



木島平村学校給食センター



岡谷市立小井川小学校



伊那市立東部中学校



岡谷市立岡谷西部中学校

11月17日(土)、応募者総数113チームの中から第1次審査を通過した10チームが第2次連携でアツという間に“おいしく栄養バランスがとれた献立”を完成させました。年々高い

課題献立

部門

開発加工食品を使用し、食育として教材化したもの

最優秀賞

飯田市学校給食 竜峡共同調理場



受賞者の喜びの声

職場の仲間 心ひとつに

栄養教諭 工藤 奈々

「生産者の方が大切に育てた地元食材をふんだんに使用した献立」が今回のテーマでした。コンクールに合わせて、秋頃に旬を迎える食材を中心に考えた献立にしました。

2次審査に臨むにあたり、過去に出場した先生や調理員さんに話を聞いたり、調理場内では、試作したものをみんなに食べてもらい、野菜の切り方や彩りなどにアドバイスをもらったりと、多くの人に支えられて準備を進めていきました。

初めての2次審査は、アピールタイム、調理、盛り付け、どれも制限時間内に終える事ができて満足でしたが、最高の賞までいただき、なんと良かったら良いのか、うまく言葉にできないほどの喜びでした。これは竜峡共同調理場全体として、食材を届けてくれた生産者の方々、応援してくれた地区の先生を含め、みんなのおかげでいただけた賞だと感じています。

今後も、この賞を励みに、子どもたちへの「地元食材で郷土愛が深まるおいしい給食作り」を調理員さん達と共に目指していきます。

優良賞



塩尻市立丘中学校

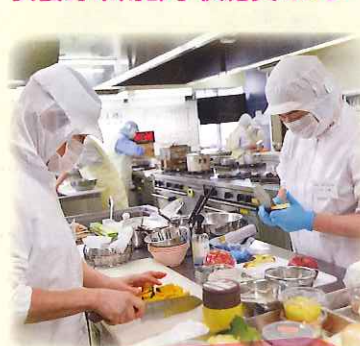
優秀賞



安曇野市南部学校給食センター



白馬村学校給食共同調理場



参加者の声

緊張しましたが、プレゼンも調理も大変よい経験になりました。また、色々な方とお話しできたりおいしい給食を食べさせていただいたり、本当に参加してよかったです。

審査委員長



廣田 直子

(松本大学大学院 健康科学研究科 教授)

副審査委員長



渋沢 陽一

(長野県教育委員会事務局 保健厚生課企画幹事課長補佐)

審査委員

*敬称略、50音順

石井 千史

(長野県PTA連合会 母親理事)

大星 充子

(長野県学校保健会栄養教諭・学校栄養職員部会長)

斎藤 利恵

(長野県農村生活マイスター協会 監事)

竹内 佳代子

(長野県教育委員会事務局 保健厚生課学校給食係指導主事)

舟田 寛子

(全国学校栄養士協議会 OB会理事)

横内 宏行

(長野県小学校長会(松本市立源池小学校長))

*献立コンクールの作品レシジは、「長野県産物を活用した学校給食献立レシジ集(3月発行)」に掲載します。